

駅伝男子

26日・京都

秋田工

(9年連続
27度目)

全国で輝け

大舞台に挑む本県高校チーム

③

2年生の成長、好材料

チームのスローガンは「強さと信頼」。タイムだけでは

なく、本番で実力を発揮できる強さを求めて互いに競い合う。野呂玲央(えりお)主将(3年)は「いつも全員で大舞台を意識してきた」と都大路での活躍を誓う。

県大会では出だしからリードを守り、2位に11分以上の差をつけてゴール。県内では頭一つ抜けた実力を持つ。ただ、全国の舞台ではおとしが13位、昨年は24位と目標の入賞に届かなかった。

就任3年目の高橋正仁監督は「今年はけが人も少なく、いい練習ができています」と手応えを口にする。練習時間は1時間半ほど。成果があれば、早く切り上げることもある。「休むことも練習」と伝え、体調を自己管理する考え方が選手に浸透しつつある。

三つのグループに分かれてトラックを走る「インターバルトレーニング」にも、その考えが反映される。A・Cの順に速い選手が固まり競走する。どのグループに入るかは選手に委ねられていて、自身の調子を客観的に判断することが求められる。野呂は「頭の中で走りの課題や体のケアを常に考えている」と語る。

レースをけん引するのは、佐藤宏亮(3年)と小松聖(2年)の2人。昨年、けがで満足な結果を残せなかった佐藤は、今年の県大会で1区を好走。「後半の伸びを磨き、3年生として結果を残したい」とリベンジを誓う。各校のエースがひしめく1区の座を最後まで狙う小松は「攻めたレースをする。チームで1番の選手になりたい」と大会を心待ちにしている。

小松をはじめ、2年生の活躍は好材料。インターハイの陸上男子800メートル、1500メートルで入賞した大野聖登(同)は「先輩後輩関係なく競い合える、いい環境にいる」と話す。高橋監督は「鍛えないとメンバード入りできない厳しさが、互いを成長させてきた。本当の強さを身に付けつつある」と期待を込めた。

トレーニングに励む秋田工の選手。秋田市の秋田大

さきがけ動画



区	氏名	出身中	県予選記録
1	佐藤 宏亮③	大館東	29分52秒(1区)
2	大野 聖登②	羽後	8分8秒(2区)
3	藤本 駿世②	大曲	24分35秒(3区)
4	小松 聖②	雄勝	24分26秒(4区)
5	佐藤 祥樹③	雄勝	9分11秒(5区)
6	小佐川 優③	能代東	14分45秒(6区)
7	金澤 悠陽②	大館東	15分24秒(7区)
補欠	小原 拓夢③	横手南	
補欠	池田 優也②	城南	
補欠	米村 修翔②	花輪一	

(オーダーは予想。丸数字は学年)



(謙田秀平)